

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）

記入年月日	2015 年 2 月 20 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年 () 3年 () 4年
授業科目名	キャリアデザインとライフプラン
担当教員名	板倉 文彦

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

本科目は、学生が将来的にキャリアデザインやライフプランを自分自身で構築できる知識とスキル習得を目指している。そのため理論のみでなく各種演習を取り入れており、その効果を高めるためにアクティブラーニングの一環であるグループワークも取り入れている。しかし、学生は個人ワークにはある程度慣れているようだが、グループワークについては戸惑う姿も見受けられた。

グループワークは講義の前半と後半での実施を想定していたが、前半を終えた時点で授業評価アンケートを取り、その中でグループワークについても問いかけた。その結果、学生は苦手意識を持ちつつも、「自分以外の人意見から新しい発見があった」「やってみると面白かった」「将来のためになる」といった前向きな意見が多く見受けられた。結果次第では後半のグループワークはレクチャー重視とすることも想定していたが、結果的に学生からの意見を反映し、学生の自主性に任せて実施した。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015年2月20日
科目区分 (該当するものをに○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (○) 選択
対象学年 (該当するものをに○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	コミュニケーションと心理
担当教員名	大塚 みさ

記 入 欄

1. アンケート概要

11月の授業時に無記名アンケートを実施。履修登録者数 29 名、回答者 (=出席者) 数 22 名。

2. 調査対象科目と選択理由

標記科目はコミュニケーションスキルコースの選択科目であり、1、2年生の両学年が履修している。他学科および他コースへの開放を行わない科目であるため、コースに所属する学生の理解度や意識を調査するのに適していると考えられたため、アンケート調査の対象科目に選んだ。

3. 調査項目と調査結果

調査後すみやかに授業改善を行うために、一般的な調査項目のほかに、具体的な授業内容に関する意識・意見を問う項目 (⑤⑥) を加えた。以下にその集計結果を示す。(末尾にグラフも添える。)

また、アンケートでは①～⑩の回答の根拠を具体的に記入する自由記入欄を設けている。

		⑤ そう思う	④ まあ そう思う	③ どちらとも いえない	② あまりそう 思わない	① そう 思わない
①	この授業の予習や復習をする習慣がある	1	3	4	11	2
②	教員の話し方・内容はわかりやすい	11	8	1	2	0
③	授業の進行スピードは適切である	10	8	4	0	0
④	授業内容はよく理解できている	1	17	4	0	0
⑤	スライド(プラズマテレビ画面)は見やすい、または理解の助けとなっている	11	6	4	1	0
⑥	ワークシートは使いやすい、または理解の助けとなっている	17	4	1	0	0
⑦	(出欠状況を除いて) 自分の受講態度はよい	5	13	2	1	1
⑧	この授業を受講して、新しい知識・技能・学力が身についている	11	10	1	0	0
⑨	この授業を受講してより興味を持ち、さらに深く学びたいと感じている	6	13	3	0	0
⑩	総合的に見て、この授業に満足している	9	11	2	0	0

4. 調査結果の分析

【一般的調査項目】

おおむね良好な評価を得ていると考えられる。はじめに、肯定的な回答（5、4）の合計が40%に満たない項目について、その理由を考えてみたい。

①（授業の予習・復習）はほとんどの学生が実施していないことが明らかとなった。授業では、毎回回収したワークシートにコメントをつけて翌週返却していることがその一因かもしれない。ただし、新しい単元に入る前に先取りの質問を行って、それについて考えてくるよう促しており、また返却と併せて授業冒頭で前回の振り返りを行っていた。これらを「予習」「復習」として意識させられなかった（もしくはアンケート項目がそれを指すと理解させられなかった）点に問題があるだろう。

【具体的な授業内容に関する評価】⑤⑥

⑤「スライド（プラズマテレビ画面）は見やすい、または理解の助けとなっている」については、約77%が肯定的な評価であった。単語を超える長さの具体例を多く扱う科目であるため、スライドの使用は必須である。その際なるべく「見て」わかるよう工夫を凝らしたスライドが学生の理解を助けていることがうかがえた。

⑥「ワークシートは使いやすい、または理解の助けとなっている」については、実に95%が肯定的な評価であった。ワークシートはキーワードの穴埋めと、自分の意見を書き込む欄が中心となっている。前者はスライドでわかりやすく表示して転記させており、「聞く」「読む」「書く」の三段階で理解が深まるように工夫したものである。後者は、なるべく具体的な質問項目への意見を書かせており、直後に指名して発表させることで、学びを深めることができた。他の学生の意見を聞くことの意義を大いに感じたことや、上級生の意見を聞いて勉強になったという声も自由記述欄に書き込まれていた。

5. アンケート実施後の改善点と取り組み

自由記述欄に書かれた意見も大いに参考になった。すでに4で触れた点も含めて、以下にまとめる。

⑤で「あまりそうともいえない」という回答者の自由記入欄には、スライドの文字が小さくて読みづらいという意見が書かれていた。実際に大教室のプロジェクタを想定して作成したスライドであったため、プラズマテレビの一面で提示できる情報量およびレイアウトの関係で再構成が難航していた。もちろん極力工夫を凝らしたが、同時に画面が見づらいと感じる学生には、前の座席に座るようにとの指示をより強調した。

冒頭で行う前回授業の振り返りは大切ではあるが、授業の進行を考えると控えたい考えもあって苦悩していた点であった。しかし、これが理解を深めていることが自由記述欄から明らかになったため、効率的に取り入れながら続けていくことにした。

他の学生の意見を聞くことの意義についても同様である。比較的少人数であり、かつ全員の顔と名前を把握していたことから実現できたことであるが、その後も意識的にこれを行うようにした。

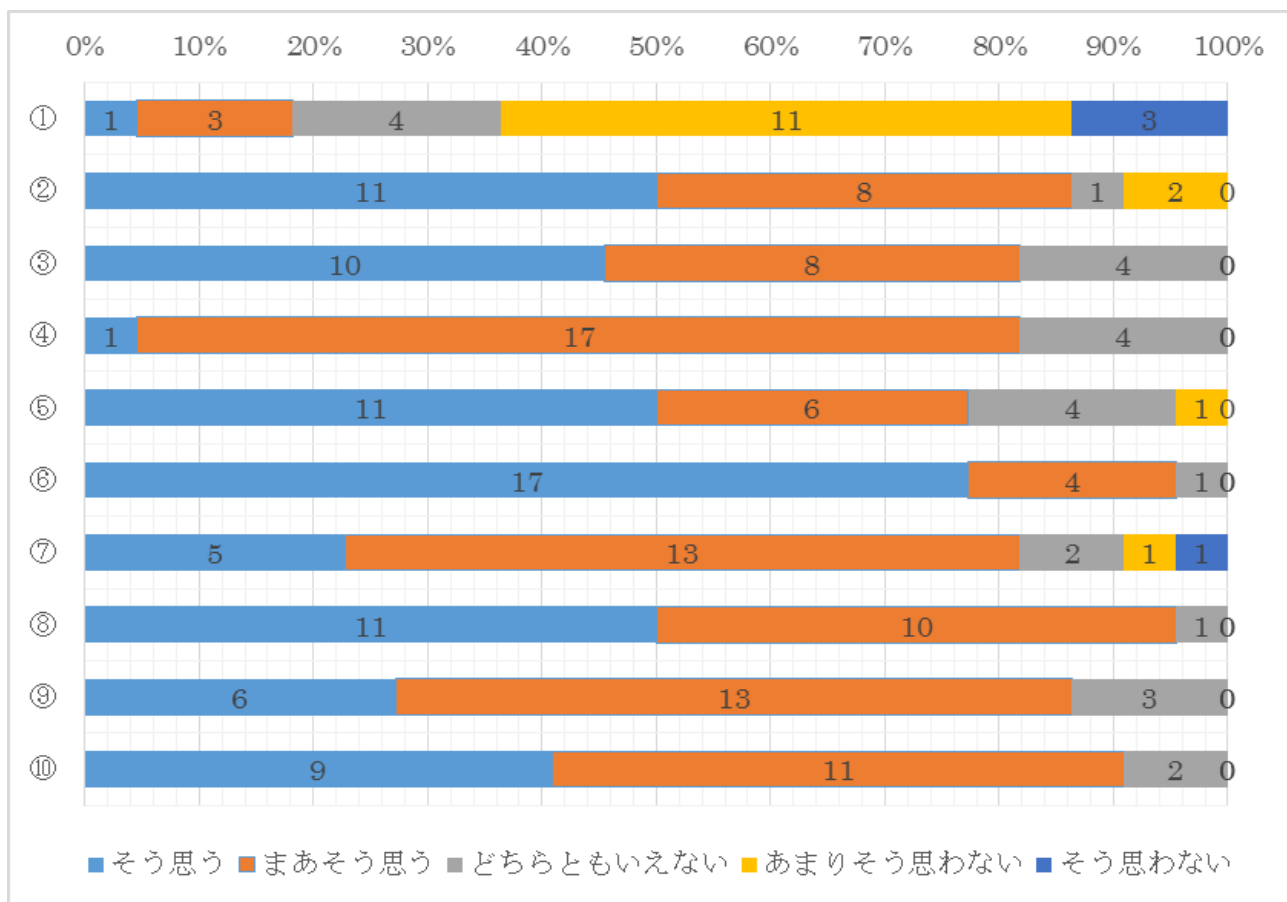
6. 今後の課題

・「予習」「復習」の位置づけを明確に行い、学生に伝えて行くべきだと考えた。それにより、専門課程を学ぶという姿勢を培うことができると考えられる。

・テレビ画面サイズのスライドの使い方を、工夫したい。また、ホワイトボードも併用できる点にも注目したい。

・人数にかかわらず、発表の機会を設けて、発表者および聴衆への教育効果を高めたい。

付録：集計結果のグラフ



- ① この授業の予習や復習をする習慣がある
- ② 教員の話し方・内容はわかりやすい
- ③ 授業の進行スピードは適切である
- ④ 授業内容はよく理解できている
- ⑤ スライド（プラズマテレビ画面）は見やすい、または理解の助けとなっている
- ⑥ ワークシートは使いやすい、または理解の助けとなっている
- ⑦ （出欠状況を除いて）自分の受講態度はよい
- ⑧ この授業を受講して、新しい知識・技能・学力が身についている
- ⑨ この授業を受講してより興味を持ち、さらに深く学びたいと感じている
- ⑩ 総合的に見て、この授業に満足している

授業改善等に関する報告書（26年度後期）

記入年月日	2015年 2月 13日
科目区分	共通教育科目：（ ）必修 （○）選択
対象学年	（○）1年 （○）2年 （○）3年 （○）4年 *単位互換科目
授業科目	日本語表現法
担当教員	佐藤辰雄

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

「日本語表現法」では、授業改善を目指して以下の設問項目でアンケートを実施した。実施日は12月10日（水）である。回答数は30人。

- 君はホワイトボードに向かって、どの辺りの席で授業を受けることが多いですか。該当する番号を○で囲んでください。
 ①左側前列 ②左側中列 ③左側後列 ④中央前列 ⑤中央中列 ⑥中央後列
 ⑦右側前列 ⑧右側中列 ⑨右側後列
- 授業内容の難易度について尋ねます。
 ①とても易しい ②やや易しい ③丁度良い ④やや難しい ⑤とても難しい
- 授業内容や板書・声の大きさ等、教員に改善を望むことがありますか。あれば具体的に記入してください。 ①ある ②特にない
- 前項で①と答えた人に尋ねます。改善の為に君自身、何かをしたことがありますか。
 ①ある（その内容） ②特にしてない

〈アンケート結果〉

- 座席について
 ①4人 ②2人 ③6人 ④3人 ⑤2人 ⑥4人 ⑦1人 ⑧3人 ⑨5人
- 授業内容の難易度
 ①0人 ②2人 ③21人 ④7人 ⑤0人
- 授業改善の要望
 ①人数の割に教室が狭い 1人 ②29人
- 学生の主体的改善
 ①学生課に言う

〈結果に対する所見〉

A) 授業内容の要望は特になかった。前期の要望を踏まえ、略字や崩し字を改めたことが、要望なしに結びついたようだ。

B) 授業は507教室で行ったが、小講義室なので30余名の受講生では狭く感じたかも知れない。そ

れが「3」の意見につながったのだろうが、これは授業内容や教員の教え方の問題ではないので、学務部で工夫対処してほしい。

C) 難易度では圧倒的に丁度良いが多かった、と言って良からうか。特に緊急に改善の必要があるとは判断できない。

D) 座席の問題では、わりと狭い教室ながら後列組(③⑥⑨)が全体の半数15人を占めた。随分以前に、二つの機関が別個に座席と成績との因果関係を調査したことがあったが、期せずして似通う結果だった。それは、後列に座る者は成績が悪く、前列から中列に座る学生が1番良く、前列の学生はそれに次ぐ、というものだった。経験則から言っても妥当な結果だと同感したが、今回のアンケートでも関連する結果となっている。

それは授業内容がやや易しいと感じる学生は中列(②⑧計2人)に座り、やや難しいと思った学生は前列(①④⑦)に3人、中列(②⑤⑧)に1人、後列(③⑥⑨)に3人という具合から歴然としている。